

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298700012		
法人名	社会福祉法人希望会		
事業所名	グループホーム希望の里		
所在地	千葉県匝瑳市栢田8645		
自己評価作成日	平成26年1月4日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

他法人のグループホームや、同じ法人内のデイサービス、ケアハウス、ホームヘルパー、居宅介護支援事業所の利用者及びスタッフとの合同行事、地域のボランティアと連携をとることで、サービスの向上、研修などの充実につなげています。明るくあたたかな介護に努め、フットマッサージや入浴といった入居者と密に接している時間は、特に和やかにコミュニケーションを図っています。匝瑳市の運営する訪問看護ステーションと24時間365日連絡対応体制を整えており、健康管理、医療的な支援につなげています。2ヶ月の1回の運営推進会議では、市職員、民生委員、御家族からの意見を定期的に得てサービス向上に努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム希望の里」の法人「希望会」は、デイサービスとケアハウスを運営しており、日頃から交流や合同行事が実施される等、入居者の生活の活性化を図っている。地域に対して、施設や法人の活動における理解促進の活動が積極的に行われており、市と共催の介護教室・自治会の活動等を通じて、地域との関わりを深めている。協力病院には、認知症外来があり、認知症専門医の協力のもと、日頃の相談やアドバイスを通じて適切な支援に努めている。「地域・安らぎ・自信」を主眼とした理念のもと、外部との交流を深めながら職員全員で理念の実現に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成26年1月15日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念「地域に根ざした明るい長寿社会作り」を玄関に掲示。地域のボランティアサークルを受け入れている。地域の行事に参加。	「地域・安らぎ・自信を感じられる明るい長寿社会づくりに努めます」という施設理念を掲げている。定期的に全職員を対象に研修を実施している共に、施設玄関の目立つ場所に理念を掲示し、職員及び訪問者に理念を周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の回覧板を利用し、サービス内容の説明を実施。施設代表者は、自治会の区長をしており希望の里について説明。ケアハウス、デイサービスの利用者、近隣の小学生との交流を実施。	日頃から近隣住民とあいさつを交わす関係を築いていると共に、法人理事長が自治会の区長をしており、施設の理解促進に取り組んでいる。また、積極的に地域のボランティアを受け入れる等、施設の知名度向上・理解促進に努めている。その他にも、小学生の職場体験受け入れや交流会を行い、世代間交流も図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の他法人の施設職員を研修生として受け入れている。地域住民から介護相談があると、責任者が相談対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、民生委員、御家族、管理者が2ヶ月に1回集まり、運営推進会議を実施。活動報告、活動予定、介護保険に関することなどの情報交換をしている。	市職員・民生委員・法人職員・施設職員等を構成員として、2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、施設の活動報告を行い、施設の理解促進を図ると共に、意見・情報交換を行い、施設のサービスの質の向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時、訪問調査時、市役所窓口等において情報交換を実施。定期的に広報誌やパンフレットを配布し、施設のPRを行う。	日頃から市に対して、業務における報告や相談を行い、連携を図っている。法人が市と共催で介護教室を行っており、地域の福祉ニーズに応じた取り組みを実施している。その他にも、市が「施設ケアマネ研修」を開催しており、研修を通じて、問題の早期改善・サービスの質の向上に取り組む関係を築いている。	

【千葉県】グループホーム希望の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束における資料配布、説明を年1回実施。家族の面会、外出、外泊も可能とし、自由な生活を支援。	身体拘束排除・高齢者虐待防止・権利擁護等における資料の配布や研修の実施を通じて、全職員への理解を深めている。日頃の支援方法について、職員の意見や相談に耳を傾け、身体拘束を行わない、適切な支援方法の実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法における資料配布、説明を年1回実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護における資料配布、説明を年1回実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書・重要事項説明書について利用者や家族に施設責任者から丁寧に説明を行い、疑問点についてもわかりやすくお答えし理解、納得して頂けるよう努める。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市職員の案により玄関に目安箱を設置。家族の面会時、電話連絡時に意見、要望等を確認。	家族の面会時・電話連絡時に意見・要望等を直接確認している。また、定期的にアンケートを行い、集計結果を会議で検討する等、施設サービスの向上に向けた取り組みがなされている。その他にも、定期的に法人の新聞を作成し、家族に配布しており、施設理解促進の工夫を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設責任者は、職員の意見を否定しないよう努め、提案内容は検討し、可能な時は、運営に反映している。	定期的に会議を開催し、職員からの提案や意見等を確認する機会を設けていると共に、施設長が職員と面談を行い、個別の思い・意向の把握に努めている。外部研修の参加や内部研修に外部の講師を招く等の工夫をしており、研修の充実化・適切な人材育成に努めている。	

【千葉県】グループホーム希望の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長始め法人役員19名は、他法人理事長や前施設長も多数おり、事業活動に関して意見交換実施。介護職員処遇改善加算交付金制度には積極的に申請、就業環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士や介護支援専門員の資格取得希望者には、各地で実施されている受験対策研修への往復の交通費を事業所が支援する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	計画作成担当者は、市役所主催の施設ケアマネ研修に毎回参加し、自己研鑽、他施設と情報交換を実施。管理者は、他法人のグループホームや特養等の施設長と定期的に情報交換を実施。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、利用者本人と面接を行い、居宅の担当ケアマネージャーとの情報交換を行い、入居後適切なサービス提供ができるよう情報把握、潜在的ニーズの収集に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、御家族と面接を行い、入居後の適切なサービス提供ができるよう現状把握、潜在的ニーズの収集に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接では、当事業所のサービスのみならず、他法人の福祉用具貸与事業所などとの連携も意識した対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人がどのような事に興味があるのか意識しながら同じ目線で言葉かけをしている。利用者の方からは過去の体験を思い出して色々教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族には、面会時、お手紙にて毎月、利用者の身体状況、受診状況、行事活動等を報告。急変時の受診時は、迅速に家族に連絡し、診察時の同席を依頼。共に支える関係構築に努めている。		

【千葉県】グループホーム希望の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの、なじみの主治医との関係を入居後も継続できるよう送迎等支援。気軽にご家族や友人が来苑できるよう、外出、外泊、面会は自由。	友人・知人・家族等の面会・外出は自由となっており、馴染みの関係継続に努めている。同法人経営のケアハウスの入居者との交流が行われており、馴染みの関係継続及び新たな関係の構築を支援している。地域行事にも積極的に参加し、馴染みの場や風習に配慮した支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者ひとりひとり性格がちがうので、食事の席などはできる限りお互いが快適に生活できるように配慮している。職員と利用者の会話はもちろん、利用者同士が楽しく会話できるよう見守り支援。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、御家族はもちろん、入居者の知人から連絡あった際には、適切な対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴を把握し、ご本人やご家族から希望、意向を取り入れたケアができるよう努めている。毎月、職員会議を実施しており、情報の共有ができるように努めている。	契約時に本人・家族から生活歴・身体状況・意向等を確認し、記録している。また、必要に応じて他のサービス事業所から情報提供を受け、より詳細な情報の把握に努めている。介護計画作成担当者が受診時に同行しており、心身の状況や入居者のニーズの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人のプライバシーに配慮し、職員がご本人やご家族から、これまでの生活歴や経過の情報収集に努め、生活歴シートを作成。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身状態の観察結果から毎月の職員会議で話し合い課題を検討。訪問看護ステーションの看護師から毎週助言や指示を頂き対応している。		

【千葉県】グループホーム希望の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族から会話や毎月のお手紙などで希望や意見を伺っている。毎月の職員会議の情報をもとに、適切な介護計画の作成に努めている。	会議を開催し、検討の結果をもとに、介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認や評価を行い、必要に応じて、介護計画の見直しを行っている。介護計画を作成・見直しを行った場合には、会議にて作成担当者が説明を行い、職員全員へ周知している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌は、一目で利用者一人一人の1日のケア状況、食事量など生活状況がわかるように工夫している。また個別ファイルには、業務日誌には記入できない詳細な内容を記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでの介護サービスを提供する他に、ケアハウスの自立高齢者を毎週招いて、カラオケ大会を開催。福祉用具専門員と会議し、必要な福祉用具の用意を実施。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	面会が気軽にできるようにするため制限を設けていない。通りすがりの友人、親戚、御家族が急に来訪しても面会可能としている。民生委員には来訪時、入居者と会話して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	遠方の病院でも希望があれば送迎や付添いを毎回無料で実施している。訪問看護ステーションと24時間連絡対応体制契約を結んでおり医療面の環境を整備している。	希望のかかりつけ医への受診が可能となり、介護計画作成担当者が受診の付き添いを行っている。協力病院が認知症外来を行っており、必要時には、アドバイスを受ける等、協力体制を構築している。また、訪問看護を契約しており、日頃の健康管理や24時間連絡対応等の連携を図っている。	

【千葉県】グループホーム希望の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	夜間対応においても看護師に相談し助言を頂いている。看護師に利用者の状態を報告、必要時は医療的処置を実施。心身状態の変化の可能性等助言を介護職員にして頂き、適切な対応につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診や救急受診時には、職員も診察に同席し、主治医との良好な関係作りに努めている。入院時は、病院の主治医や看護師と連絡を密にとりスムーズな退院につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び終末期に向けた指針や対応方法を御家族に説明し、同意書を交わしている。訪問看護ステーション、医療機関、関係機関等との連携を図り、意向に沿った対応ができるような体制を整えている。	重度化・終末期における指針・対応方法を家族に説明し、同意書を交わしている。希望に応じて、家族との相談を重ねながら、医療機関や他施設への移行等、家族の希望に沿った支援をできる限り行えるよう協力体制を整えている。緊急時対応・医療搬送等の研修を実施しており、職員全員が適切な対応をとれるよう体制の万全化に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設以来、毎年地元消防署から救急隊員を招き、実践的な救急講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー、自動火災通報装置、火災報知機、非常灯、消火器を設置。夜間想定も含め年3回の防災避難訓練を行い、うち1回は消防署立会いの元、講評を受けている。	スプリンクラー・火災報知機・自動通報機等の消防設備を設置していると共に、平屋建ての施設内には、複数の避難経路が確保されている。年に3回、避難訓練を実施しており、訓練では、消防署立ち会いの訓練・夜間想定・設備点検等を行っている。	

【千葉県】グループホーム希望の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人ファイルは、所定の場所に管理し個人情報の保護に努めている。個人情報保護法について毎年内部研修を実施。言葉づかい等についての研修も実施。	個人情報保護・プライバシー保護におけるマニュアルの設置や研修の実施を通じて、全職員に理解を深めている。理念に「安らぎ・自信」を掲げており、入居者一人ひとりの尊厳を大切にしながら、安心して自信を持って生活できるよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を尊重し自己決定できるように声掛け行い、食事、睡眠、入浴、受診希望等を伺っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望を優先し、食事、おやつ、入浴、昼寝等、一人一人のペースに合わせた生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪、洗顔、衣類の着替え等、本人のペースで個別に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に特別食の日を設けたり、季節感ある旬の食材を利用したメニューを提供。入居者ができる範囲において食事に関する日常生活動作ができるよう支援している。	希望に応じて、食事の準備から片付けまでを共同で行っている。献立は法人の栄養士が作成し、栄養バランスに配慮した食事提供をしていると共に、定期的に入居者の希望食の日を設け、食の楽しみを支援している。その他にも、外食会や行事食の提供等を行い、楽しい食事を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	地元産の食材を活用し、法人専属の栄養士が考案して栄養バランスの良い日替わりメニューを提供。日々の食事量、水分量を記録しケアに役立てている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施。就寝前にはポリデントで入れ歯洗浄を実施。		

【千葉県】グループホーム希望の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用して、一人一人の排泄パターンを把握。必要な方には法人所有のポータブルトイレを無償貸与。訪問看護ステーションと連携し快適な排泄ができるよう支援している。	排泄チェックリストを作成しており、個々の排泄パターンを考慮しながら、トイレ誘導・声かけを行っている。また、夜間においては、ポータブルトイレの使用やトイレ誘導を行い、適切な支援を行っている。必要に応じて、医師・看護師と相談し、排便コントロールを行うと共に、最終排便日を記録し、便秘の予防にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録をチェックして水分量、食事内容を把握し、スムーズに排泄できるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に添えるように一人一人に合わせた対応をしている。	本人の希望に応じて、時間・回数を調整しながら適切な入浴機会を設けている。必要に応じて、清拭・部分浴・シャワー浴等を実施し、入居者の清潔保持に努めている。その他にも、岩盤足浴の機械を導入しており、入居者のむくみ防止・血行促進に活用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の生活習慣を把握して体調や表情を読み取り、状況に合わせた休息ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報がすぐ確認できるようファイルしている。不明な点は確認し症状の変化を見逃さないよう努めている。		

【千葉県】グループホーム希望の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の希望や力に応じた役割を見つける等、楽しく過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣、花見、買い物等の外出支援している。また選挙にも積極的に参加している	日頃から散歩・買い物・ドライブ等を実施しており、戸外に出る機会を設けている。施設敷地内には大きな庭や花壇があり、気軽に外の空気を楽しめる環境が整備されている。定期的に外出会を企画・実施しており、戸外での楽しみを提供している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望と家族の了解のある方は、家族と取り決めた範囲でのお金は自由に使えるようになっている。他の方は基本的にホーム管理となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望に応じて電話をしたり、取り次いだりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よい音楽や、照明の明るさ、室温管理等工夫に努めている。居心地の良い生活ができるよう配慮している。	広く確保された共有スペースには、ソファ・テーブル・椅子等が設置され、入居者が自由にくつろげる環境となっている。カラオケ機が導入されており、定期的にケアハウスの入居者と合同でカラオケ大会を行う等、入居者の生活の活性化を図っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の気配り、ソファの配置等考慮している。居室の出入りもお互いの了解の上自由にして頂いている。		

【千葉県】グループホーム希望の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人が使い慣れたものを持参して頂き、使い慣れたもの、見慣れたものがあることで安心できる環境づくりに努めている。	本人・家族の希望に応じて、馴染みの家具等を持ち込むことが可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、テレビの設置やポータブルトイレの使用も可能となっており、入居者の生活歴やニーズに合わせた居室作りを行っている。全居室にエアコン・呼び出しブザーが付いていると共に、収納スペース・鍵が設置されており、安心して快適に生活できるよう配慮した設計となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各個人の入り口には、手作りの表札があり、トイレには大きな表示で遠くからでも認識できるよう工夫されている。		